

教材名：3年生「モチモチの木」

②評価規準

知識・技能：様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。(1) 才
思考・判断・表現：①登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C・エ)
②文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C・オ)
主体的に学習に取り組む態度：登場人物の性格について、場面の移り変わりと結び付けながら粘り強く想像し、学習の見通しをもって、感じたことや考えたことを友だちと伝え合おうとしている。

①学習課題

つけたい力：人物の性格を想像して考えたことをみんなに伝える力。
そのために：セリフや地の文からその人の性格を考えます。
言語活動：お気に入りの斎藤隆介作品の「登場人物紹介カード」を作成しよう。

①教材と出会う（構造と内容の把握 精査・解釈）

【発問①】登場人物を確認しよう
中心人物：豆太 対人物：じさま わき役：医者様
・人物像：名前、どこに住んでいる、性格、とくい、にがて
かぞくなど その人のことがよくわかるもの
【発問②】昼と夜の豆太をくらべよう
・昼の豆太
「やい木い」 いばっている 木の下に立って足ぶみする
えらそう 強気 モチモチの木に対して強い
・夜の豆太
一人でせっちんに行けない じさまと一緒にいかないため
モチモチの木がこわい おくびょう モチモチの木がこわい
【発問③】昼と夜、どちらが本当の豆太なのか
・どちらも本当の豆太 ・でも少し夜のほうが本当の豆太にちかい。
なぜならやっぱりせっちんにいけないから。
・性格はずっと同じじゃなくて変わるから、どれも豆太だと思う。
・じさまが死ぬかもしれないと思った豆太は、本当は勇気のある子。
・どちらも豆太。いざとなったら勇気がある子。でもじさまがいると
甘えんぼうになる。
・おくびょうの豆太も、勇気のある豆太も本当の豆太。だって性格は
ひとつじゃない。

②考えを深める（考えの形成 共有）

【発問①】モチモチの木に灯がともることに対する二人の考えのちがいははっきりさせよう
じさまの気持ち
・豆太ならできる ・豆太にも見せてやりたい ・たくましく生きてほしい、育ててほしい
豆太の気持ち
・昼間ならいいのに ・「それじゃあおらはとてもむりだ」 ・泣きそうに言った
・とにかく夜はこわい ・でもどこか気になる
【発問②】最後の場面、豆太の性格を〇％であらわそう
じさまの気持ち
・一人で夜道を走った ・勇気のある子ども ・自分で弱虫というな ・やさしさもある子
例：勇気60％やさしさ20％弱さ20％ 勇気80％やさしさ19％弱さ1％ など

③言語活動 ○成果と●課題

○子どもたちは前のめりで取り組む様子があった。臆病なようすも、勇気のある行動も、どちらも豆太であり、じさまに最後、だっこしてもらっている姿に「元に戻った」という発言から、周りの子どもたちがちょっと違う、という考えを交流しだしていた。
●言語活をパワーポイントで「スライド形式」で発表する方法とした。しかし、タイピングなどの技術面での差が生まれてしまった。4月よりタイピングできるように練習させていきたい。

子どもたちのふりかえりより

・モチモチの木を勉強してほかの本もたくさん読めたのでおもしろかった。切り絵が昔のふんいきがあって昔の家ってこんなかなとか思った。話と絵が合っていていままでのお話とちがっていた。
・けっきょく豆太は変わっていないと思う。だけど、勇気っていくつもあって、じっさまを助ける勇気が一番力をだしたと思う。



単元計画
はこちら